平成22年度茨城県統計グラフコンクール結果

統計知識の普及向上を図るとともに，次代を担う児童・生徒を中心に早い段階から統計に慣れ親しんでもらうことを目的に「第61回茨城県統計グラフコンクール」が茨城県，茨城県教育委員会及び茨城県統計協会の主催，並びに茨城新聞社の後援により６部門に分けて行われ，4,450点（9,267人）の応募がありました。

作品の審査は９月17日（金）に，茨城県庁共用会議室で行われ，県知事賞６点，県議会議長賞６点，県教育長賞11点，茨城新聞社長賞５点など計98点が入選しました。また，入選作品のうち34点を全国コンクールに出品し，２点の作品が部門別の第１位である特選に選ばれたのをはじめ，12点が入選，５点が佳作に入賞しました。また，本県は応募点数が17年連続で日本一，11年連続特選受賞という輝かしい成績を収めることができました。

なお，特選受賞者は平成23年２月２日（水）に開催される全国統計協会で表彰を受ける予定であり，また，県コンクールの上位入賞者は平成23年１月19日（水）に茨城県庁において開催される「平成22年度統計功労者表彰式」で表彰される予定となっています。

平成22年度茨城県統計グラフコンクールの応募・入賞状況は次のとおりです。

平成22年度茨城県統計グラフコンクール応募・入賞状況

応募状況

部別	第１部	第２部	第３部	第４部	第５部	パソコン統計グラフの部	計
応募作品数	575	1,262	1,610	362	3	（小）449 （中～）189	4,450
応募人数	1,034	2,646	3,801	981	3	（小）1,108 （中～）604	10,177

入賞状況

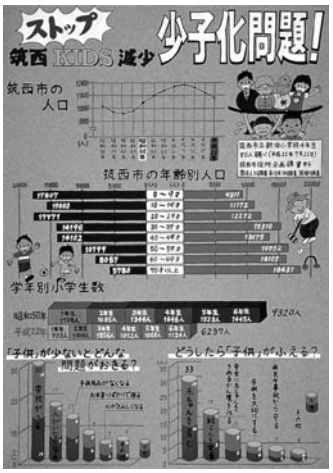
賞名	作品点数	作成者数	全国コンクール出品点数	全国コンクール入賞点数		
				（特選）	（入選）	（佳作）
県知事賞	6	8	6	1	4	－
県議会議長賞	6	15	6	1	3	－
県教育長賞	11	27	11	－	4	3
茨城新聞社賞	5	10	5	－	1	1
県統計協会総裁賞	25	60	6	－	－	1
県統計協会会長賞	45	89	－	0	0	0
合計	98	209	34	2	12	5

■茨城県知事賞

〈第１部〉

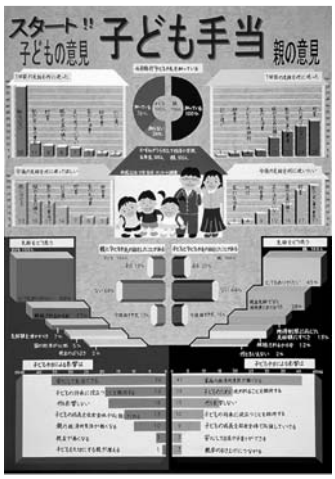
古河市立
古河第一小学校
２年
城下　友香

※この作品は全国コンクールにおいて「特選」になりました。



〈第２部〉

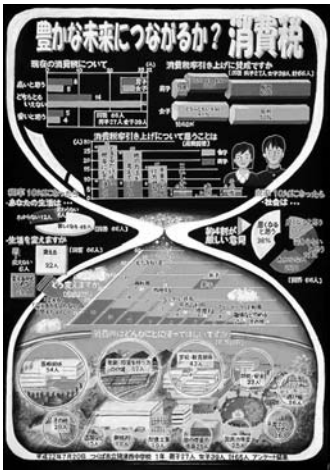
筑西市立
新治小学校
４年
塚本　桜花



〈第３部〉

かすみがうら市立
下稲吉小学校
６年
久松　瑞季

※この作品は全国コンクールにおいて「入選」になりました。



〈第４部〉

つくば市立
筑波西中学校
１年
玉井　悠貴

※この作品は全国コンクールにおいて「入選」になりました。

〈第５部〉

一般
倉田　廣之

※この作品は全国コンクールにおいて「入選」になりました。

〈パソコンの部〉

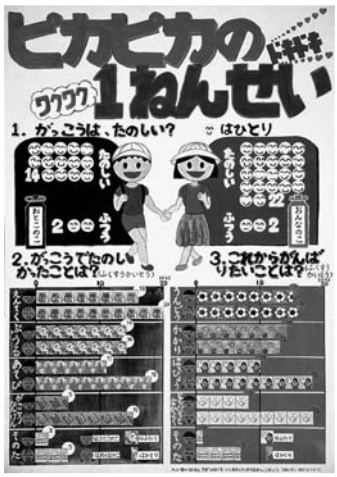
八千代町立
東中学校
３年
中島　友里恵
関　　雅人
石川　将也

※この作品は全国コンクールにおいて「入選一席」になりました。

◎部門の区分は以下のとおりです

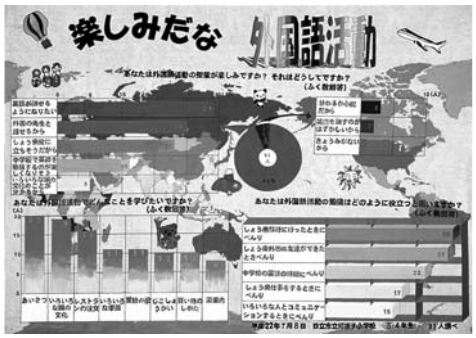
第１部……小学校１・２年生の児童
第２部……小学校３・４年生の児童
第３部……小学校５・６年生の児童
第４部……中学校の生徒
第５部……高校生以上～一般
パソコンの部…小学校の児童以上

■茨城県議会議長賞



〈第１部〉

石岡市立
柿岡小学校
１年
小林　瑛司
加藤　可奈子



〈第２部〉

日立市立河原子小学校４年
杉澤　夏季

〈第３部〉

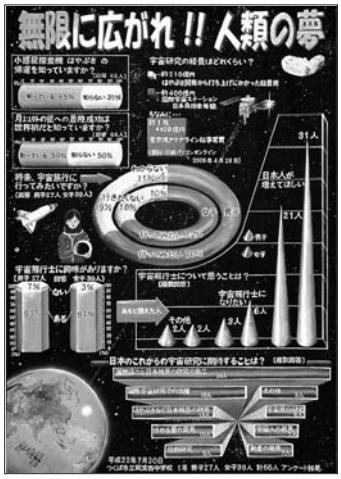
日立市立
豊浦小学校
６年
井出　成来
関根　桃花

※この作品は全国コンクールにおいて「入選」になりました。

〈第４部〉

常総市立
石下中学校
１年
小林　未来
高野　　蒼
恒吉　美萌里
天野　氷海

※この作品は全国コンクールにおいて「入選」になりました。



〈第５部〉

土浦日本大学
高等学校
１年
玉井　綾乃

※この作品は全国コンクールにおいて「特選」になりました。

〈パソコンの部〉

古河市立
古河第四小学校
６年
大門　鈴菜
斎藤　彩佳
鈴木　　萌
高尾　日向
髙山　萌花

※この作品は全国コンクールにおいて「入選」になりました。

もし統計がなかったら…統計のない世界ってこんな感じ!?

今年の10月には，５年に１度の国勢調査が全国一斉に実施され，各家庭に調査票も配られ，調査票にご記入いただけたことと思います。その際に，この資料は何に使われるのかなとふと思ったかたもいたことでしょう。もしかしたら，お子さんに，「一体何に使うの。」と質問され，答えに窮した方などもいるのではないかと思います。

そこで今回は，もし，統計がなかったらというテーマで，統計がない世界での困った事例をいくつか想像して見ました。これはあくまで，統計がない世界という架空の話ですので，半信半疑にご覧いただいて，皆さんに「こんなことはありえない。」と感じてもらいつつ，少しでも統計がどのように生活に関わっていて，役に立っているのかを考えていただけたらと思います。

EPISODE ❶　～教科書にも資料集にもデータがない!?～

ある学校の社会科の授業で……

先生，この国の人口は，10年前は，どのくらいで今はどのくらいですか？　そして，将来の人口は増えますか？　減りますか？　お母さんとお父さんは「今は昔に比べてこどもの数が**なんとなく**少なくなった気がする」って話してたけれど…教科書にも資料集にも載ってないし…先生，教えてください！

うーん困りましたね。先生の住んでいる地域では，**なんとなく**こどもの数も多い気がしますが…統計がないから，教科書にも資料集にもこの国のデータが載っていません。現在の人口や過去の人口がわからなければ，将来の人口も予測できませんし…

実際の統計のある世界では……

国勢調査から得られた統計から過去の人口，現在の人口もわかりますし，そこから将来の人口も予想できます。

また，実際に住んでいる人口（夜間人口）だけでなく通勤先や通学先（昼間人口）もわかります。よって，学校の教科書や資料集にデータが掲載されないという事態もなさそうです。

EPISODE ❷　～保育所･学校が必要な地域がわからない!?～

このあたりは，共働きの世帯が**なんとなく**多い気がするのに，この地域は保育サービスが充実しているとは思えないな…。地域別に，年齢別のこどもの数や，地域別の世帯の就業状態，共働き世帯の数がちゃんとわかっていればこんなことにはならないのにね～。

最近，この近くに学校ができたけど，この地域は高齢者の単身世帯が**なんとなく**多い気がするね。若い世帯は**なんとなく**少ないような…統計がないからほんとのところはわからないけど。しっかりしたデータがあれば，もっと効率が良いまちづくりができそうだけど……

実際の統計のある世界では……

国勢調査から得られるデータには，地域別に高齢者の単身世帯の数，こどもがいない世帯，こどもがいる世帯，そしてそのこどもが何歳が何人いるのかということもわかります。

EPISODE ❸　～新聞の記事にデータの裏付けがない!?～

せっかく新聞の記事を読んでも，「**なんとなく**景気が悪くなっているとか，１年前よりたぶん物価が下がっているとか，売り上げは少し良くなっているとか…」具体的なデータがまったくないので商売の見通しもたたないよ。まいったな～。

この記事に，若年層の失業者が**なんとなく**増えているって書いてあるけれど…本当？　データの裏付けがないことを記事にされてもね…

実際の統計のある世界では……

失業率や就業者数などは，毎月，総務省が公表している「労働力調査」によってわかります。しかも，この調査，結果精度を高めるために，国勢調査の結果を用いて標本設計されているのです。国勢調査や他の全数調査があるからこそ成り立っている標本調査もたくさんあるのですね。

また，今年の10月１日のある新聞の経済面をざっと見ただけでも，統計数値を用いた記事が11件もありました。ニュースや新聞も統計に支えられているという側面もあるのかなと思います。

EPISODE ❹　～保険料が高すぎる!?･保険業が成り立たない!?～

こんな高い保険料はとてもじゃないけど払えないよ。なんでこんなに保険料が高いのだろ。でも，そろそろいろいろなリスクに備えて保険には入らないといけないし…人の寿命とか事故の件数とかそういうデータがあれば保険料だって適正な水準になると思うのだけれど…

うちの会社の保険商品をＰＲしたパンフレットを作りたいのだけど…何歳で何％の人が生きているとか，この国の平均寿命や平均余命等のデータもないわ。
そもそもうちの会社の保険料ってどうやって決めてるのかしら？

実際の統計のある世界では……

ニュース等で「日本人の平均寿命は世界一」という話を聞いた事はありませんか。平均寿命や平均余命は，厚生労働省が公表している「国民生命表」によってわかります。しかもこの「国民生命表」，国勢調査のデータをもとに５年ごとに作られており，推計人口や人口動態統計をもとにした「簡易生命表」も毎年作成されています。

また，民間の生命保険会社等も「標準生命表」というものを利用しています。この「標準生命表」も「国民生命表」や「人口動態統計」をもとにして作られています。

このように生命保険では，統計に基づいて，年齢ごとの死亡率に応じた保険料を設定すること等により，とんでもない高額な保険料を支払わなければならないという事態はなさそうです。

統計のない世界はいかがだったでしょうか。上記に挙げた例はほんの一例に過ぎず，統計が私たちの生活に役立っている例はまだまだたくさんあります。また統計は，水や空気と並んで，普段は意識することが少なくても，必要不可欠なものであることに，なんら変わりありません。

今後とも統計調査へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※本書は，統計全般について解説したものであり，記述に当たってはできるだけ具体的かつ平易であるよう心掛けました。本書によって，統計に対する理解が一層深められることを期待するものであります。